

## フォーラム運営側からみたコミュニティとしてのパソコン通信

鈴木 治郎

信州大学医療技術短期大学部

筆者が3年間、運営スタッフを務めてきている、パソコン通信の一つのコミュニティ（フォーラム）に関して、コミュニティとして機能するにはどのような点が問題となるか、また、現状を肯定的に評価した場合、どのような点が良く機能しているのかを報告する。

An Observation for an Electro-network 's Manager as a Community

SUZUKI Jiro

School of Allied Medical Sciences, Shinshu University

Asahi 3-1-1, Matumoto, Nagano, 390 JAPAN

e-mail: szkjiro@gipac.shinshu-u.ac.jp

The author had worked in the one of the management staff of an electro-network community (forum) since 1993. In personal observation for the experiment, I found some important points for electro-network communication being well. So, I have some ideas to manage some electro-network communities.

## 1. はじめに

筆者は1993年よりNIFTY-Serveにあるサイエンス・フォーラム（以下FSCIと略す）という、パソコン通信内にある会において、フォーラムの運営側スタッフを務めており、現在はサブシスオベ（以下サブシスと略す）という、フォーラムの主宰であるシスオベを直接補佐する立場にある。この間において、パソコン通信内におけるフォーラムを、コンピュータネットワーク内にあるコミュニティの一つとみなしたときに、そこの運営にかかる問題に対して、主に筆者の経験にもとづいて述べる。

なお、FSCIにおいては運営に関する多くのことを会員に対してなるべく公開しながら進めてきているが、フォーラムによっては、以下で述べることは守秘義務に属して公開できない場合もあり、比較検証の困難な話題もあるだろう。

## 2. パソコン通信にかかる事項

### 2.1. 関係用語

以下に本論で用いる用語および必要な範囲のNIFTY-Serve内のフォーラム運営にかかる機能をあげる

**フォーラム** パソコン通信NIFTY-Serveにおけるコミュニティ単位、フォーラム間では独立性が高い。

**ハンドル名** フォーラム内で発言者が使うニックネーム。ハンドル名自体で発言者の性格を表現することが多い。

**シスオベ** フォーラムの主宰、NIFTY-Serveを運営するニフティ（株）と契約関係にある。

**サブシス** フォーラムの運営者の主要メンバー、シスオベに近いフォーラムに対する管理権限を行使できるが、ニフティ（株）との直接の契約関係にはなく、対シスオベとの関係において任につく。

**サブシスのもつ管理権限** 会議室の閉鎖および、各発言に対する削除・移動・題名変更ができる。

**会議室** フォーラム内にあるコミュニケーションの場。

**議長** フォーラム内にある会議室の運営者。管理権限は会議室内における発言を通じてのみ行使できる。議長を補佐する副議長もある。多くのフォーラムで運営スタッフはシスオベ、サブシスオベ、議長およびそれに準ずるメンバー（副議長など）からなる。なお、会議室の性格に応じて別の呼称が使われることも少なくない。

### 2.2. FSCIの構成

FSCIで主として扱う話題は自然科学に関するものであり、1988年5月に天文フォーラム(FSPACE)の会議室「科学のひろば」を母体として誕生した[1]。この誕生にかかる経緯からFSCIでは天文分野は扱わず、FSPACEとの協調関係の上に会員に案内をしている。

NIFTY-Serveではフォーラムへの入会に際し、承認手続きを済ますまでは、会議室の利用をできなくする機能があるが、FSCIではなんら管理を設けていない。以下に現在設置されている会議室の一覧を掲げる。

**数学** 数学全般

**物理** 物理全般

**化学** 化学全般

**生物** 生物全般

**地球科学** 気象・地質等（天文を除く）

**テクノロジー** 科学技術全般

**データライブラリー出張所** データライブラリー情報

**情報/数理科学** 情報科学全般

**環境科学** 環境科学全般

**コンピュータルーム** コンピュータに関する情報

**計算術\*** 数値計算を含む計算技術

**ハードSFの科学的考察** SF作品のうち

「ハードSF」と称されるものに関する科学的考察を行う。空想にもとづく理論もこの会議室で扱う。

**相対論にももの申す\*** 物理学の相対性理論のみを扱う

この指とまれ、オフしま専科 オフラインミーティング情報

**情報源\*** 情報の所在・結果のみを知りたい質問・回答を行う

**メディカルサイエンス** 生物学で人間に関するもの

**科学談話室&&気軽にQ&A** 自然科学全般（一般質問および分野をしぼれないもの）

**居酒屋** 自然科学とは必ずしも関係ない、やわらかい話を主に扱う

（\*印は常設でない会議室）

スタッフには分野のプロはほとんどいない。例外は、数学会議室議長（筆者）、地球科学会議室議長（気象庁関係者）、メディカルサイエンス（医師）である。なお、メディカルサイエンスは扱う話題の性質から、専門家に議論のコントロールをする必要があるとの積極的判断により適任者に議長を依頼したものであり、他の会議室では、議長となった者の、会議室での活動にもとづいて選任時のスタッフが依頼している。

NIFTY-Serveではフォーラム間の独立性が高いため、これら話題と近いことを扱うフォーラムをあげておく。

**化学** 化学フォーラム(FCHEM)

**生物** 生物フォーラム(FBIO)

いずれも当該分野の研究者が積極的に設立に関与している。

**情報科学** 人工知能フォーラム(FAI)

（コンピュータが主と思えるものは除く）

**テクノロジー** 建築フォーラム(FARCH),

**土木フォーラム(FCIVIL)**

（この領域はテクノロジーの枠を広くとら

えればもっと多くのものがある）

**環境科学** 環境問題を扱うものは多くある。FSCIの場合、倫理問題は扱わないという点に特徴がある。

**コンピュータ** 非常に多い

（無料のコンピュータソフトウェアを利用するものが、パソコン通信設立時から多く関わっているための自然のなりゆきと思える）

以下では誤解のない限り、自然科学と表記すべきところを、単に科学と表記することがある。

### 3. 会議室運営の諸問題

#### 3.1. 会議室新設

会議室の発言数の増加にともなって、会議室の話題を分離して新たな会議室とした場合を除くと、現在設置されている会議室のうち以下のものが運営上の理由から新設された。

##### 3.1.1. コンピュータ・ルーム

いわゆるコンビニエンスストア的目的で設置された。というのは、パソコン通信という手段の性質から、会員がアクセスに利用する手段であるコンピュータ情報に関して最低限の情報交流はフォーラム内で解消されることが必要であり、その設立当時すでにあった情報科学会議室は会議室の性格上、適切でなかったためである。

##### 3.1.2. メディカルサイエンス会議室

生物会議室で私達人間のことも扱うと、人間独自のこと（疾病や倫理面と切り離せないこと）を扱うと、会議室の性格がその議論の間は変わってしまうため設置した。

##### 3.1.3. 相対論にももの申す会議室

物理会議室で独創的な相対論に関する発言が継続すると、新規発言者を含めて発言数が多くなり、独創的な説に対する問題点の指摘がほけてしまうなどの問題点があったのを、十分に議論する目的で設置された。

##### 3.1.4. 情報源会議室

私達スタッフはパソコン通信の面白さは議論のやりとりにあると思っており、また、古くからの会員もそうした部類に入らない発言が会議室にあるのは歓迎しない。しかし、単に解答が知りたいという質問が多くくるのはフォーラムで扱う話題が科学という一般にはしきが高いと思われるものである以上、仕方がない。そこで、始めから議論の進展を伴わない発言の受け皿となる会議室を設置しようということになった。

なお、同じ興味をもった仲間が集まるだけでなく、喧喧諤諤の議論を楽しむFSCIのようなフォーラムは、パソコン通信の草創期には多かったが、現在では古いタイプのフォーラムということである[1]。たとえて言えば、古いタイプのフォーラムは酒場での激論、新しいタイプのフォーラムはカラオケBOXで騒ぐ、に相当する。

### 3.1.5. その他の新設

現在はないが、会議室設置当時、いずれかの会議室での特定の話題に対する発言数が非常に多くなった場合に、それが会議室の他の発言の妨げになると判断される場合、あるいは新たな話題に対する会員の興味を喚起したい場合には、適宜期間限定会議室を設置している。

## 3.2. 会議室のコントロール

上にあげた会議室新設の理由をみると、たとえていうと、ある小さな喫茶店の中で小数のグループが大声でおしゃべりをしていると、他のグループではおしゃべりをしようとしても聞こえない、そうした事態に対する対応、といえるだろう。

このたとえであげた事態に対しては、まず議長の判断でそれが注意を要するものかどうか対応してもらうことになっている。そして議長一人での対応が手にあまる事態に対しては、運営スタッフ同士で話し合いを行い、援助を含めた対策を考える。なお、議長が気付かない場合でも、随時、他の運営スタッフが

問題のありそうなことには意見を伝える。

ところで、このように、ある話題に対する議論が沸騰することによって、他の議論の進行の妨げとなる事態に対しては、従来からインターネット上のネットニュースのシステムにおいて、スレッドの管理ということが行われてきている。しかし、一般の読者が自分の読みたいことを探すのは容易ではない。一方、NIFTY-Serveでは会議室の発言タイトルの検索およびコメントをたどる機能で対応している。いずれにしても、読者にとっての問題を解消しているとは思えず、技術的方法（筆者としては全文検索以外思いつかないが）で解決がはかられるのが望まれる。

運営スタッフ間での暗黙の合意は「黙らせる」および「追い出す」行為はしない。他のグループが聞こえる声で話してもらうようには促す、ということである。先にサブシスの管理権限で述べたように、問題のある発言に対しては削除する権限をもっているが、筆者の運営スタッフ参加以来、

- ・会議室閉鎖はない
- ・発言削除が行われた例は「毒物の製造法」のように社会的に危険行為につながるもの

のみである。また、発言移動は、その話題にとって適切な会議室に移動を行う形で行使される。

なお、管理権限を用いて運営せざるを得なかった、NIFTY-Serveで最も大きな事例には、素人ジャーナリズムフォーラム(FJON)において、議論が荒れ、シスオベの退任がおこり、現在はニフティ(株)の社員がシスオベを務めるとともに、入会希望者は承認手続きを経ないと入会できないこと、実名でなくニックネームで発言を行うにはシスオベの許可がいること、という運営がとられている。

## 3.3. 実際の対処例

多くの場合には、運営スタッフが対応しなくても、一般会員からのコメントによって

様々な対応がなされており、シスオベによれば「振り返ってみると、紳士的な、常識豊かなメンバーに恵まれ、とくに大きな問題もおこさずにやってこれたのは、幸運以外のなにものでもなかったような気がします。フォーラム運営に関して、それほどに強力な取り仕切りをしたわけでもないし、…」と述べている[1]。

こうした幸運をもたらしてくれた貴重な財産である会員がFSCIにずっと付き合ってもらえるように維持・運営をしていくことが運営スタッフでの問題意識となっている。

以下に筆者が運営スタッフを務めている間で、最も会議室が荒れた問題であるK事件をあげる。

生物会議室で会員Kが進化論に関する発言を行ない、一般会員との間に議論が進行する。それに対して、Kは途中から自分の発言に対して根拠を示さずに言いつばなしの発言、および一般会員Aの発言の批判の形で延々と反・進化論に関する発言を続けるようになり、多数の一般会員からのKの発言内容に関する批判が相次いだ。これに対して、運営スタッフは議長からの再三に渡る注意があったが、Kの発言はそれにしたがわず、この一連の発言に関する話題を科学談話室会議室に移動、そこで議論を続けてもらうこととした。その後、Kの発言に対するいくつかの疑問に対して、Kは回答せず、議論当事者もほとんどAおよび運営スタッフとなり、Aと運営スタッフが連絡をとりながら、上記疑問に対する回答を待つこと、およびそれを解消しないでなされた発言は無視することで対応した結果、Kはしばらくして何も発言しなくなった。この間、一般会員には運営スタッフ側の戦術に協力を求めるような指示は行っていない。

この事例に関して良かった点は、多くの一

般会員は議論の方向性を見ながら発言をしてくれること、議論において事実を詰めることを楽しみとして参加してくれていることを再確認できた。一方で、すでに開設していた会議室に誘導したために、その会議室自体の雰囲気荒らしてしまったため、Kとのやりとりに関する発言を他に移すために科学談話室のリニューアルをせざるを得なくなったことで会議室利用者に迷惑をかけてしまった。また、会員Aが不毛な議論に巻き込まれる前に運営スタッフが対応できなかったことは失敗であった。

これを契機に特定の話題を扱うには会議室新設により対応している。また、Aがそうした事態に巻き込まれるきっかけとなったのは、心強い一般会員達が多くの発言批判のコメントをKに寄せたこともあり、爆発的な議論が起こる前に、運営スタッフが早期に論点の整理をすべきであることを確認した。

#### 4. まとめ

一般の地域社会とは異なり、そこにおけるコミュニティへの参加および離脱に伴う経済的あるいは人的リスクは、パソコン通信におけるフォーラムではほとんどない。そこでは本人の興味に応じて参加がなされ、また、参加および退会は随時可能である。

そうした中でFSCIにおいては議論を行うことを主体としてなんとかうまくやってきている。その理由には

- 事実を問題として、それに対する好みや倫理は議論の対象としない。
- 質問能力の低いものに、その問題点を気付けさせるようなコメントをふだんの活動に心掛けてきた。
- 発言の論拠が示されない場合には遠慮なく質問をする会員を多く抱えてきた。
- 一般会員でもそうした注意を喚起する行動を多くとってきた会員を運営スタッフに迎えてきた。
- 知識提供が目的ではないのでスタッフに

サービス提供という意識はほとんどない。

- 自分にとって面白い議論が見物できるのにはどういう働きかけをすべきかという意識が強い。

- パソコン通信では各人の発言の記録が残ることを議論に有効に役立ててきた。があげられる。自然科学という対象を議論するために、議論対象となるのは事実である、という点からくるフォーラムの性格とともに、ここに見られるのは、運営スタッフにとっても一般会員にとっても面白い場を維持しようという興味が会員全体をつなぎとめてきたのであると言える。

以下のことは科学に限らないと思えるが、「科学とは何か」を明確に述べることは困難である一方で「科学ではないものか」に対しては擬似科学を始めとして数々の事例をあげることができる。そして、フォーラムの会員は、会員であり続けることで、数々の「科学ではない事例」に触れていき、「科学とは何か」に対するイメージを築いていく場が維持されていることが、筆者が運営スタッフとして関わる本フォーラムの魅力であると思える。

こうした組織のあり方は、生物が持っている免疫形成の課程に似ていると思える。

[2]によれば、免疫の機構は、異物を認識する機能そのものがあるのではなく、免疫機構を構成するデバイスが異物かどうかかわからないものを取り込んだ結果として、「自己でない」と認識することで非自己とみなすという。また、どうやって「自己でない」と認識できるようになるかという、デバイスが教育される結果だという。

この事実は、ここで述べてきたFSCIというコミュニティの機能、運営スタッフが支配的努力をせず一般参加者同士の働きかけでコミュニティがうまく機能していることの見方の一つを与えている。

マスメディアの発達以前には緊密な社会的規模のフィードバックはなされてこなかった。それが、パソコン通信等では可能になったの

が現在である。そこで、以下に有効なフィードバックがなされる場を形成するか、という点が新しいコミュニティ作りに重要となるであろう。

なお、社会機構に免疫的見方をした著作には[3]がある。

#### 参考文献

1. Chryso, GO FSCI, フォーラム会誌 (1992)
2. 多田富雄, 免疫の「意味」論, 青土社 (1993)
3. 西山賢一, 免疫ネットワークの時代, 日本放送出版協会(1995)